
子どもの介助の仕方 車椅子の操作の仕方

岸和田支援学校 自活研究部

子どもを介助する前に

- 介助者の服装（時計、アクセサリー、爪等）に気をつけましょう
- 子どもの表情を見ましょう
- 声かけをしましょう

介助の基本的考え方

どのような介助がいいのでしょうか。

どの子どもにも同じ介助をするのではなく、障がいの状況を考慮して、子どもの潜在的な能力を引き出す介助をしていきます。

- 他動運動から自動運動による動作の遂行
- 介助の量と部位を変えていく
- 介助のスピード
- 安心感を与える

障がい部位による分類



■ 片麻痺

・痙直型片麻痺

←右片麻痺

右手が出にくいので左手で遊んでいます。



■ 両麻痺

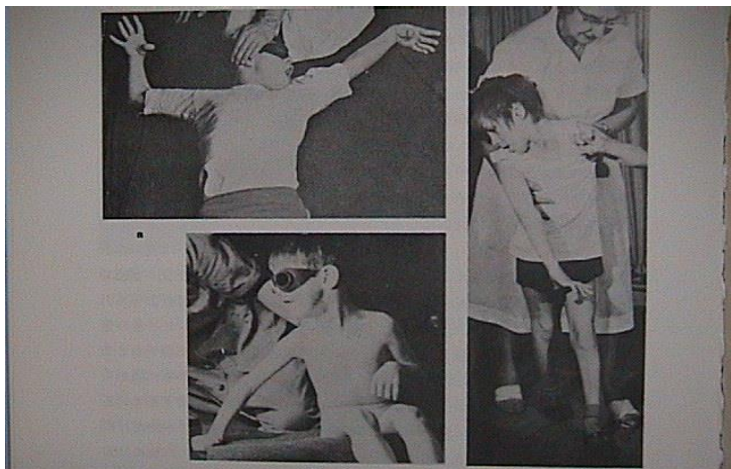
←両下肢の麻痺。

立位バランスが不十分で、お尻が引けて、足幅も広く取っています。



■ 四肢麻痺

←四肢・体幹にまひがあり、首の向きで上下肢の緊張が変化し、仰向けからの姿勢変換が困難です。



■ アトニーを伴う痙直型四肢麻痺

←自分の意思とは関係なく不随意的な動きが出ます。

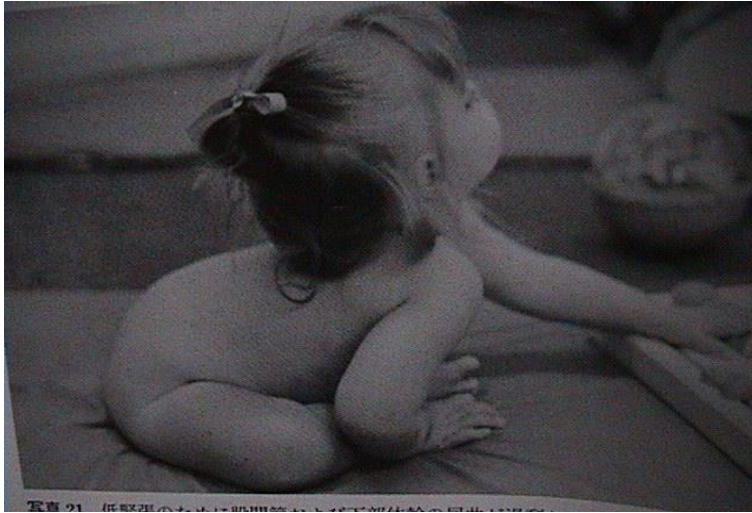


写真21 低緊張のためは頭部筋が十分に発達せず、頭部が倒れる。

- 低緊張
←筋の緊張度や筋力も弱く姿勢を保持することに努力が必要になります。



(写真) 筋力不足のため、頭部筋が十分に発達せず、頭部が倒れる。頭部が倒れると、頭部の立ち上がり

低緊張の子どもの抱き方

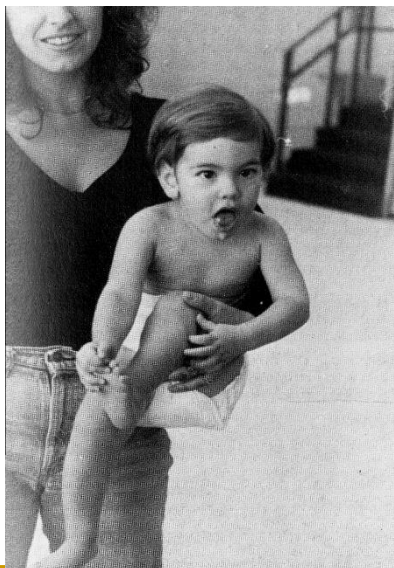


- 低緊張の子どもの抱き方は、股関節・骨盤周囲を安定させるために教師の手でパックするよう固定し、子どもの背中と教師の胸を密着させます。

緊張の強い子どもの抱き方



- とくに仰向けの姿勢は反り返りが出やすく、普通の下から抱き上げると、棒のように体をこわばらせ、時には強く反り返ります。



- 緊張の強い子どもは、一側の股関節が深く曲がると、反り返りが抑制され抱きやすくなります。

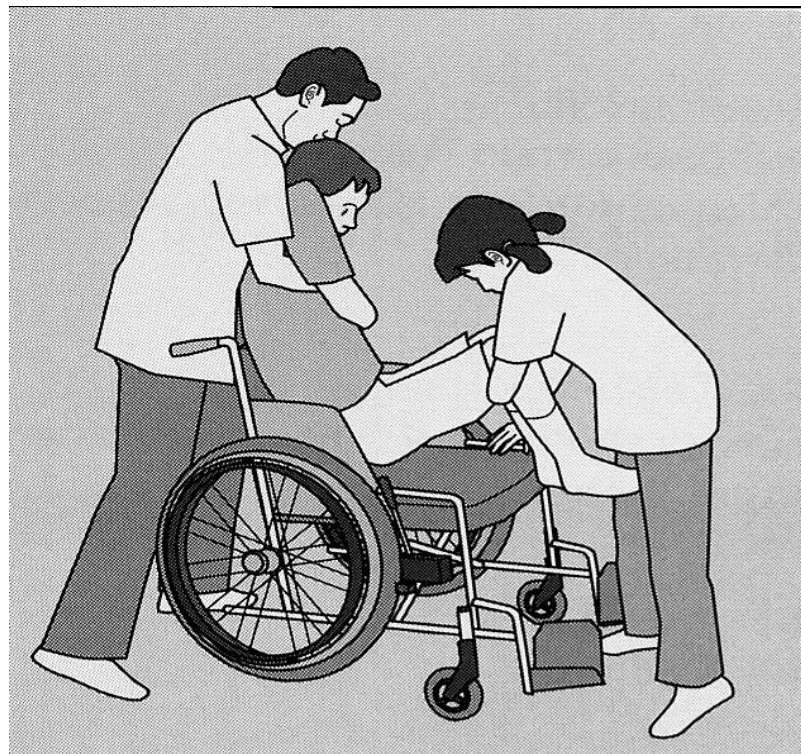
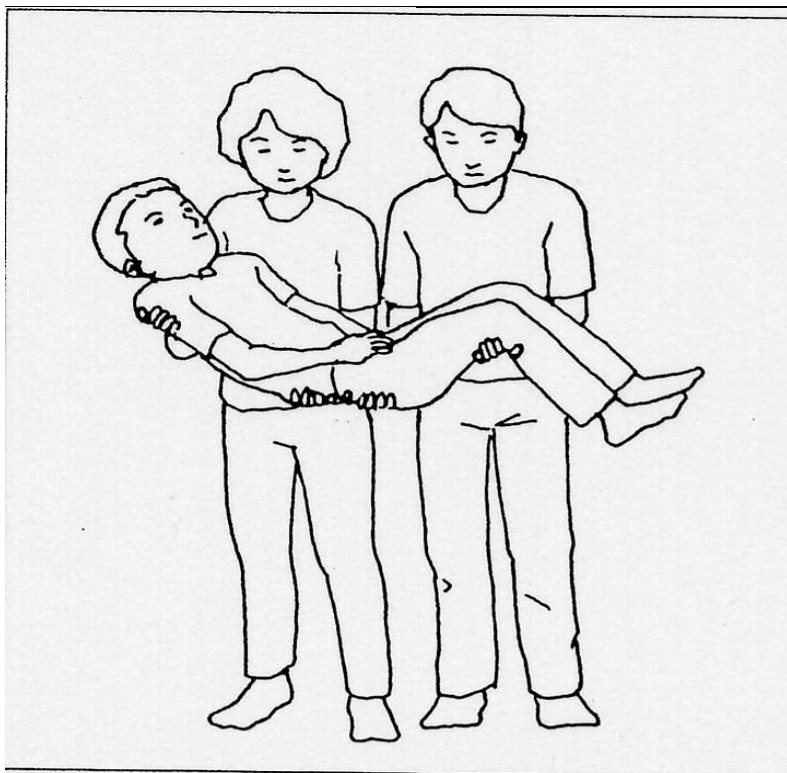
一人で介助する場合

ひとりで抱き上げる場合



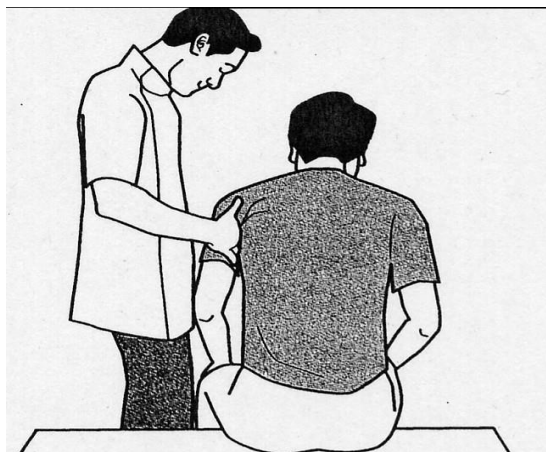
- 子どもの上肢が動かならば、教師の首から肩を持ってもらう。
- 教師はできるだけ密着し、大腿部と背中を持って掛け声とともに、ゆっくり持ち上げる。

二人で介助する場合

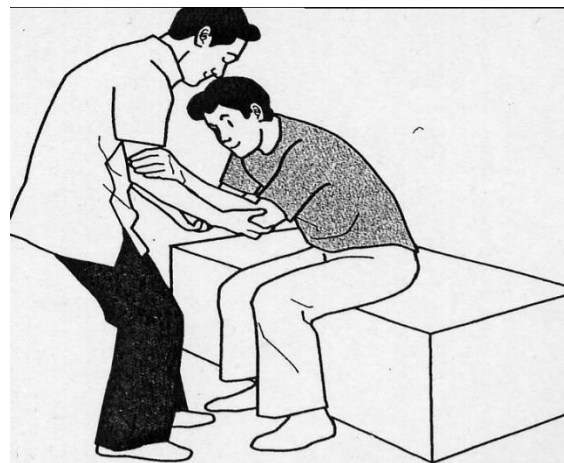


- 二人で介助する場合は、頭部・体幹と臀部・下肢を分担し、掛け声とともにタイミング良く持ち上げます。

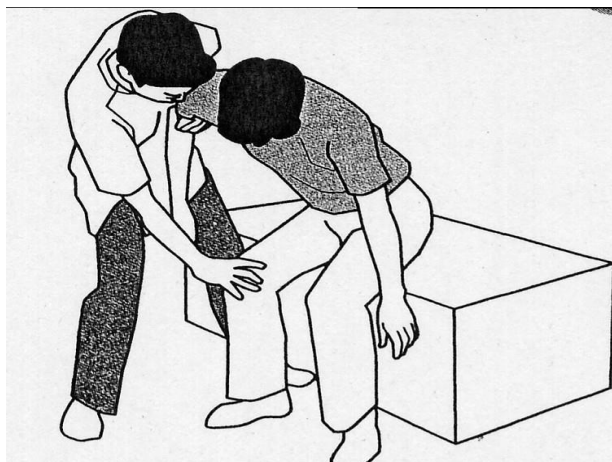
椅子からの立ち上がりの介助



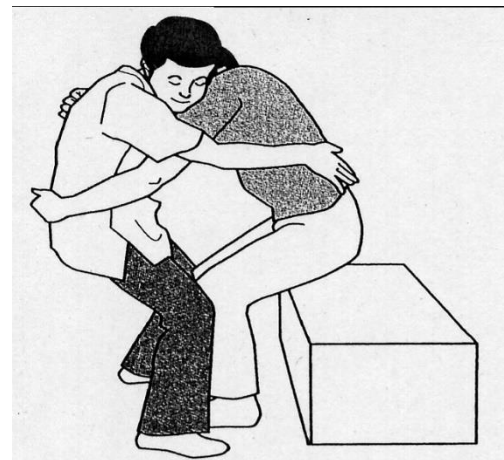
脇から介助



両手を持って介助



脇と膝を押さえて介助

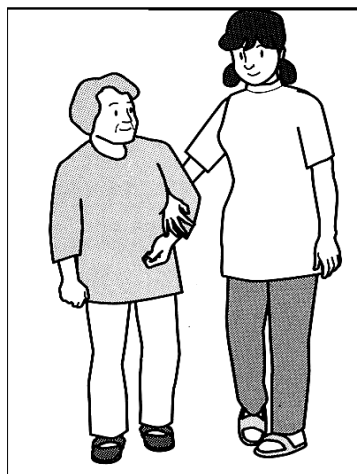
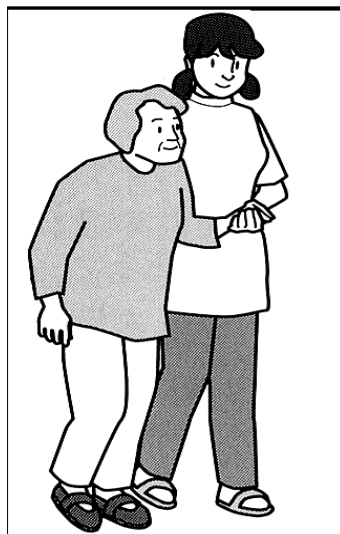


両膝を押さえて腰から介助

歩行介助の仕方

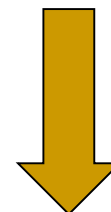


まひ側の安定を援助



中枢の(多くの)援助

から



末梢の(少ない)援助

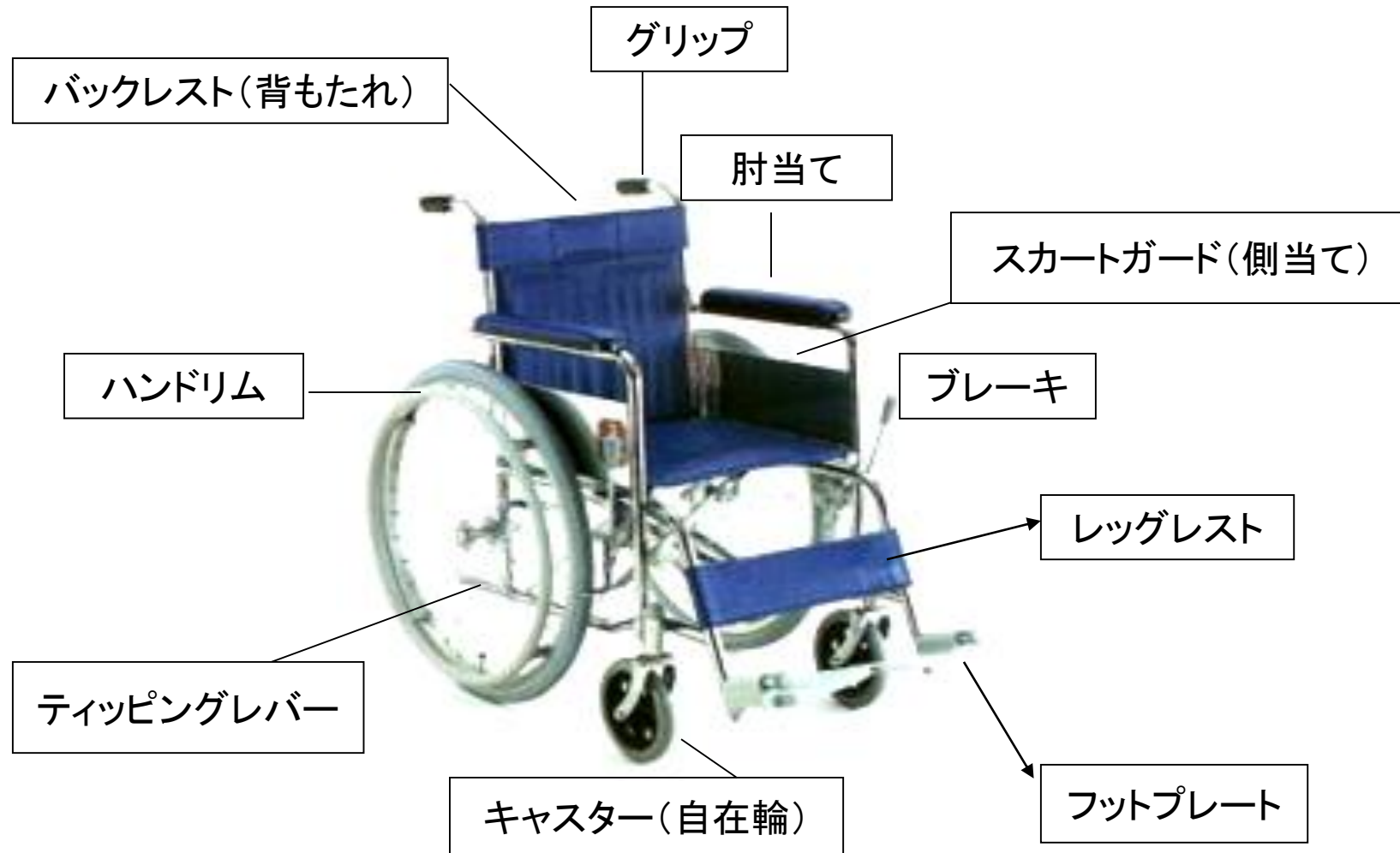


腰痛予防のための姿勢と位置

- 介助する前に子どもと介助者の位置をしっかりと決めます。
- 介助者は子どもにできるだけ接近します。
- 介助者が体重を移動してもバランスを崩さないような足幅をとります。
- 介助者は背部をまっすぐにしておきますが、決してからだを固くせず顎を引いておきます。さらに股・膝関節を軽く曲げ固くさせないようにします。
- こどもを持ち上げながら介助者の体幹を捻らないようにします。
- 二人以上の介助者を必要とするときは、全員で手順を確認し、何らかの合図によって同時に介助します。

車椅子の操作

車いす各部の名称



車椅子各部分の名称 1

グリップ:このグリップを握ると様々な操作が楽にできる。

肘当て:肘を乗せたり、車椅子から乗り移るときに体を持ち上げる。

スカートガード:衣服がタイヤに巻き込まれて汚れないようにする。

ブレーキ:車椅子から乗り降りする際の安定を確保し、停止状態に保つ。

レッグレスト:車椅子使用者の足が落ち込まないように支える役目をする。

車椅子各部分の名称 2

フットプレート: レッグレスト同様、足を乗せる部分である。

キャスター: 車椅子の回転、曲線での走行を滑らかにする。

ティッピングレバー: 介助者がキャスターを挙上するとき
このレバーに足を乗せて操作すると楽
にできる。

ハンドリム: 駆動輪を回転させる部分である。

バックレスト: 休息時にもたれて利用する。バランスの悪い
方には身体を保持する役目をする。

補装具等の紹介

座位保持が困難な子供の車椅子



リクライニング付き車いす

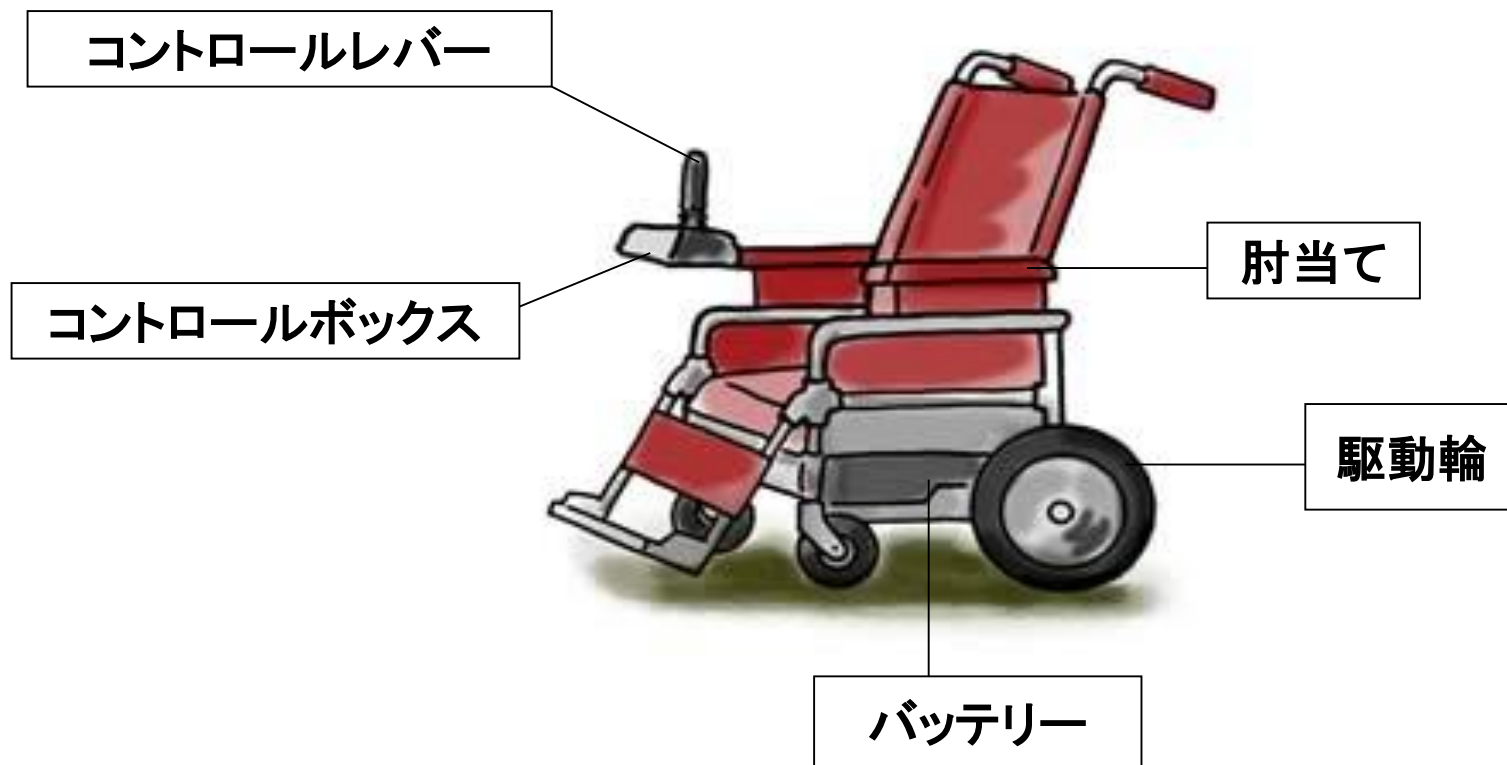


バギー



座位保持装置

電動車椅子 (自操用標準型)



電動車椅子の種類



座面昇降型電動車椅子



自操用簡易型



自操用ハンドル型

体幹装具



プレーリーくん

上肢装具



肘装具



長対立装具

下肢装具①



短下肢装具

■ SLB (Short Leg Braces)

- * 変形の予防・矯正
- * 筋緊張のコントロール
- * 体重の支持性

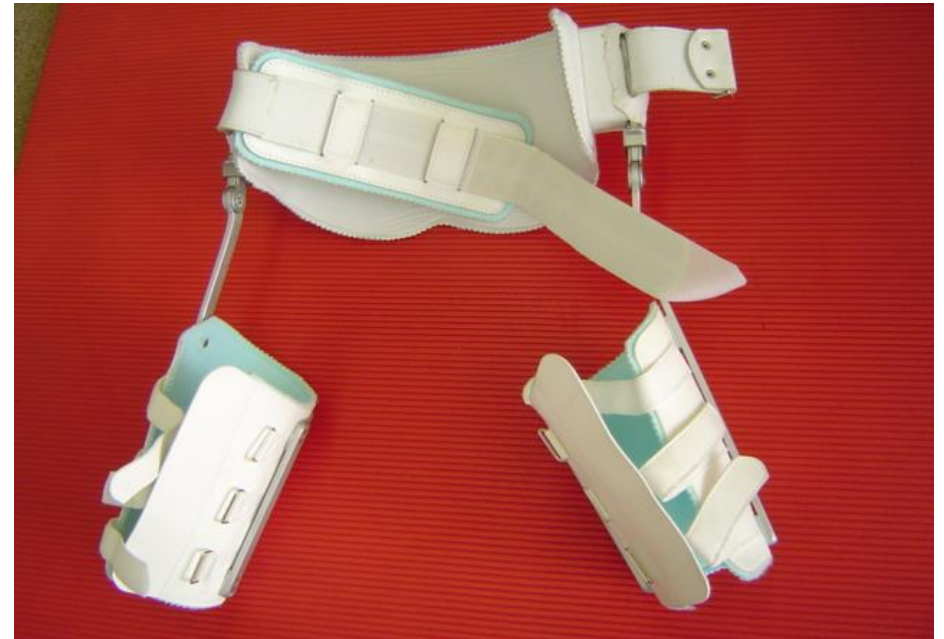
→ 移動能力の安定性
持続性UP

日常生活動作が行いやすくなる

下肢装具②



骨盤帯付長下肢装具



外転装具

歩行器



U型歩行器



SRC歩行器



PCW歩行器



ゲートトレーナー

車椅子のブレーキの工夫



リクライニングレバーとブレーキを間違わないように

車椅子の安全点検

- タイヤの空気圧
- ブレーキ
- まっすぐ進むか
- 座・背もたれのはり、ベルト
- 金具のしまり

車椅子介助の注意事項

- 姿勢を直す
- 胸ベルト・股ベルトを忘れずしめる
- 車椅子を動かす時には必ず声をかける
- スピードや乗り心地を考える
- 手足が外へでていないか
- 離れるときは必ずブレーキ！！
- 段差やスロープをおりる時は慎重に！（後ろ向きに進めた方がよい時もある）
- 足場が悪いところではキャスターを上げて進む（砂利道、ぬかるみ、踏切など）

屋外移動時の注意点

- 段差、スロープは直角に進む。
- キャスター上げのタイミング。
- 車いすの位置関係を認識する。

雨天時や屋外の留意点



雨よけカバー
レインコート

前輪がはまる危険性有



日差しカバー

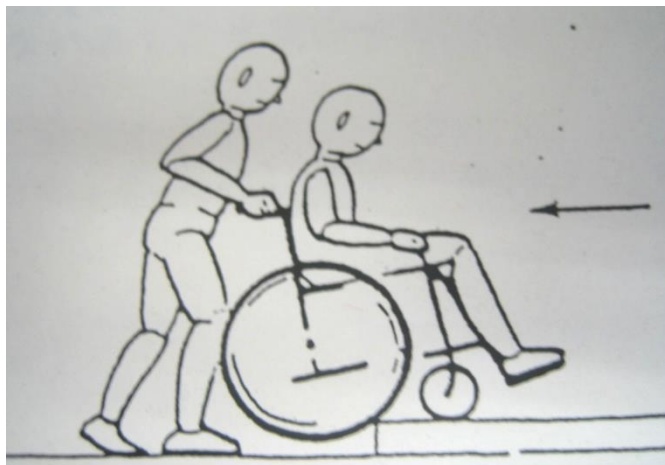
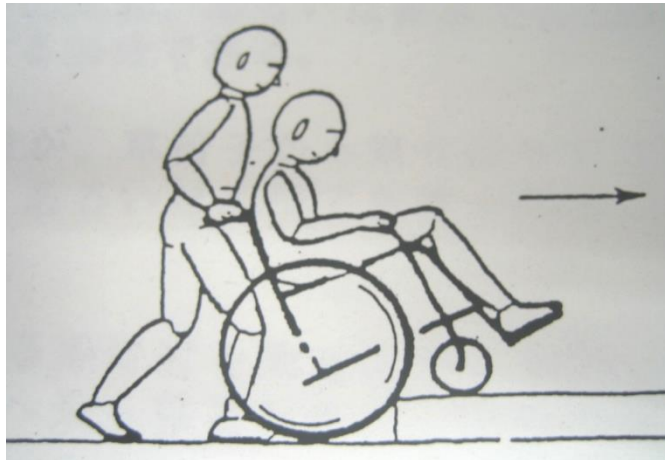
車椅子の押し方について①

■ キャスター上げ



- ① 段差を上がる時はティッピングレバーに足をかけ体重を乗せ、ハンドグリップを押し下げてキャスターを上げる。

車椅子の押し方について②

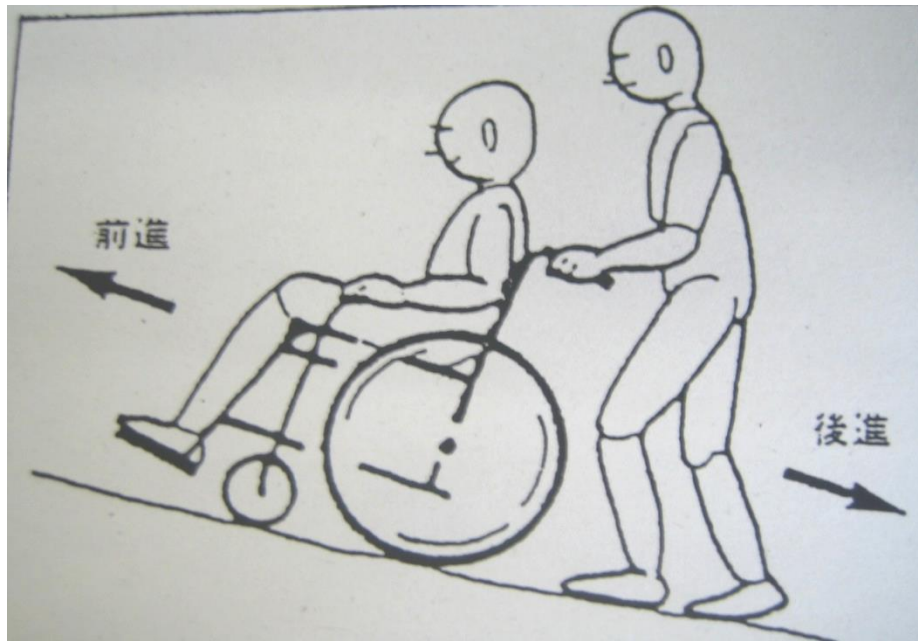


■ 段差の乗り降り

- ① キャスターを上げの後、車椅子を後輪で支えながら段に乗せる。次にハンドグリップを持ち上げ、後輪を段に上げる。
- ② 降りる時は、車椅子を後ろ向きにして、後輪から降ろす。

車椅子の押し方について③

■ スロープの昇降



- ① ゆるやかな下り坂では車椅子を前向きにしたまま下る。急な坂では車椅子を後ろ向きにし、軽くブレーキをかけながらゆっくり下る。

車椅子の押し方について④

- 後ろにたくさんの荷物を吊らない。
- 砂利道やぬかるみでは、キャスターを上げながら後輪だけで進むようにする。後ろ向きに進む方が進みやすい場合もある。
- 側溝、わだち、その他小さな段差でも、車椅子の安定を失いやすい。
- 常に自分の視野に児童・生徒を入れておく。

参考文献

- 脳性まひ児の早期治療
(今川 忠男 著 医学書院)
- 脳性麻痺の類型別運動発達
(カレル・ボバース 著 医歯薬出版)
- 新イラストによる安全な動作介助のてびき
(木村哲彦 編 医歯薬出版)